

飲屋文化再興計画

一段階的更新による新宿ゴールデン街の持続—

Keywords

新宿ゴールデン街 飲み屋街 建築の更新
木造密集 ノミニケーション 再開発



AK16002 阿川 誠

1. はじめに

大都市、東京の多くの建造物は、スクラップアンドビルドにより、以前の形態や歴史性に関係なく、利益追求のためだけに建て替えられることが多い。そのため、街の特徴の均質化、街の歴史と人のつながりの分断が発生してしまっている。

2. 研究背景

多くの文化人が集った新宿ゴールデン街（以下、G街）は、先進文化の発信地として有名である。近年、建替えや営業スタイルの変化が顕著になりつつあり、再開発も検討されている。



写真1 G街の特徴的な外観



図1 新宿駅東口周辺



図2 対象敷地周辺

3. 研究目的

現在のG街の空間の調査を通して、独特な文化的空間である飲屋街を残すことが可能な再開発の方法を追求する。また、この街の発展に寄与する場を新たに作り出して、街全体の価値を向上させることを目的とする。

4. 対象敷地

東京都新宿区歌舞伎町一丁目のG街、東京電力角筈変電所、商業ビルが現在ある敷地を対象敷地とする。新宿駅東口から徒歩6分、周辺は高さ30m以上の高層ビルが立ち並び、敷地西側には都電の線路跡地を遊歩道とした四季の路、東側には花園神社がある。

5. 新宿ゴールデン街

5.1新宿ゴールデン街の変遷

江戸時代、宿場町・内藤新宿が現在の新宿の地に開かれて、農地から大きく変化し始める。戦後、焼け野原と化した新宿駅周辺一帯に約6万店の闇市が作り出される。1949年、行政による区画整理、占領軍による露店取払い命令により、百数店の店が現在のG街の地に移動する。また、時を同じく、新宿二丁目にあった遊郭も移動する。当初は、闇市から移転した店舗は日用品を扱っていたが、新宿二丁目から移転してきた非合法売春宿に押されたため、業種を変えて街一帯が非合法売春地帯となる。1957年、売春禁止法が施行されて、G街の店はバーや飲食店に変わり、それ以後、現在に至る。しかし、近年、外国人の

観光客増加に伴う盛り上がりとともに、それを当て込んだ新規店舗の参入が増加し、これまでのG街らしさから外れている店舗が散見されるようになった。

5.2. 既存のG街の空間

5.2.1 内部空間

1店舗の大きさについては、新宿ゴールデン街商業組合（以下、商業組合）では約4.5坪の3階建てだが、新宿三光商店街振興組合（以下、振興組合）では約3.5坪の2階建てから3階建てに増築してある。両者の違いの経緯は、商業組合は初めから売春宿を目的に広く3階建てで建設されていたが、振興組合は日用品を扱っていたりしたため小規模であったためである。

現在の内部空間は、カウンターのバーである。カウンターの内側に店主が1、2人、カウンター席が8席程度あり、その座席間隔は肩と肩が触れるほど近いのが特徴である。小さい空間であることにより、『自分・店主・他の客』の三者の関係が自然と成り立つのである。

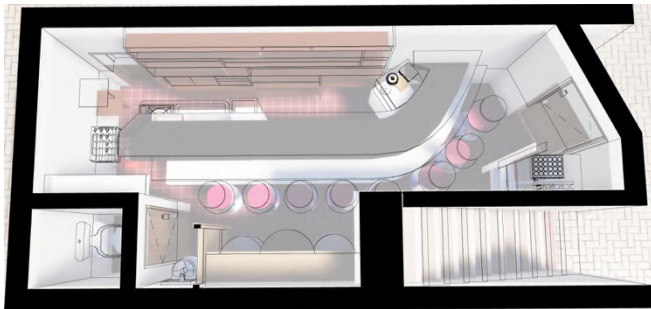


図3 G街の店舗内の空間

5.2.1 外部空間

建物前面の道幅は約2.8～3.6mであり、両側に建物建っていることにより、大通りとは違う、冒険心がくすぐられるような空間となる。各店舗の外観は様々な材料で作られており、独特な町並みを形成している。



写真2 G街の特徴的なファサード

6. 設計

6.1 プログラム

(1) 店舗部門：バー、軽飲食店

老朽化した建物の建替えによる更新と新規の店舗開設により、店舗数の増加と防災面の改善を図る。既存店舗の中には隠れ家的飲み屋の要素を残そうとしている店舗がある。それらの店舗のために既存の店舗が建替えを行

い新たに店を構えるのは地上から離れた部分とする。これは、内部が通りから見えにくいため、既存の隠れ家的要素を残せる。

(2) 歴史部門：歴史展示室、古いG街建物の再現

G街や歌舞伎町の成り立ち、以前のG街の様子を伝承する場を計画する。G街に飲みにくる人でこの街が元は非合法売春地帯であったことを知らない人も多くいる。そのような人のためにこのまちの成り立ち、このまちの根底にある人の繋がりについて知ってもらえる場を作る。

(3) テナント部門：酒屋、本屋、音楽屋、土産物屋

G街ではコンビニやスーパーなどにはおいていない様々な酒を取り扱っているので、G街で飲んだお酒を買えるお店を設ける。これにより、新たに建てる商業部門が孤立せずにG街と繋がり営業する。また、地方の酒蔵の期間限定店舗なども計画する。

(4) 交流の部門：劇場、練習室

G街には、演出家、作家、ミュージシャン、俳優など文化人、芸能人が多く集まるとともに店主自身も活動している場合が多々ある。そのような人が練習・披露・交流できる場を計画する。この交流の機会を通して、G街に新たな客を引き込む。

6.2 設計手法

G街の発展と存続のために、建物の更新と拡大を行う。そのために既存G街と変電所跡地に鉄骨フレームを組み、店舗の建替えを行う場合は新たな店舗を上階に構える。そして、下階に新たな店が作られる。靖国通り沿いの大きなボリュームが立ち並ぶ場には大きなボリュームを設けて、新たな人との交流の場とする。このように大通り沿いに大きなボリューム、敷地内側に小さなボリュームを設けることにより、G街のスケール感がより強く体感できるようにする。

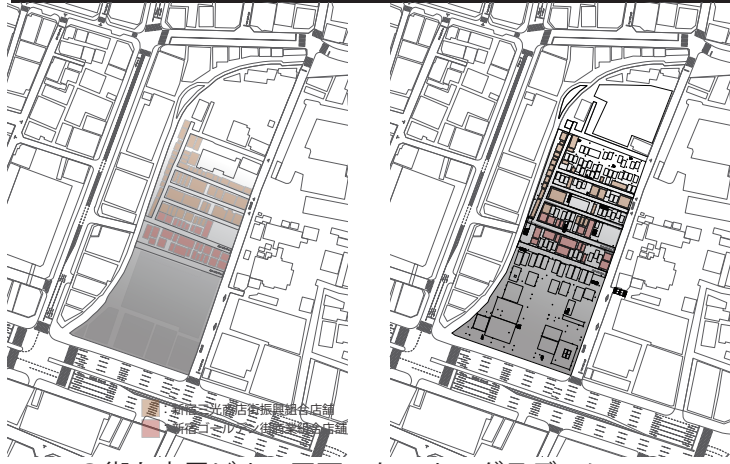
7. 展望

再開発により歴史的な庶民空間や文化空間、街の文化が一掃されてしまうのではなく、必要な要素を残しつつ更新されることによってオリジナリティを維持することができる方法を示し、各地において適応可能な方法論とする。

参考文献

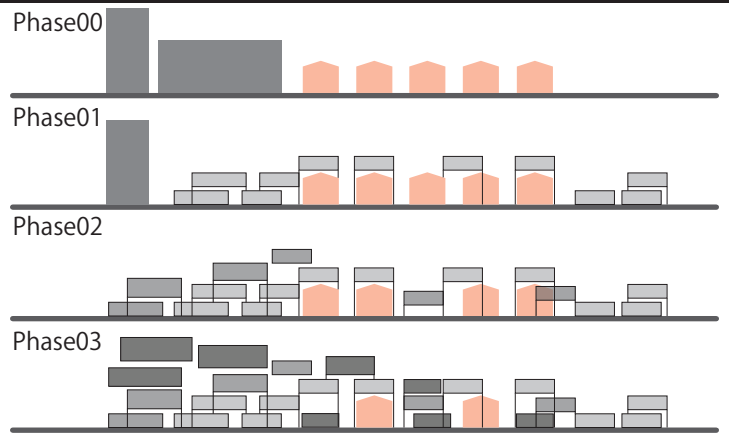
- 1) 新宿ゴールデン街まちづくり協議会（2018）『新宿ゴールデン街まちの将来像』
- 2) 渡辺英綱『新宿ゴールデン街物語』晶文社
- 3) 戸沼幸市・青柳幸人・高橋和雄・松本泰生『新宿学』紀伊國屋書店
- 4) 石樽督和『点在する東京のマーケットー再び都市の資源になるか』10+1 website
<http://10plus1.jp/monthly/2017/09/issue-03.php>

平面ダイアグラム



G 街と高層ビルの平面スケールのグラデーション

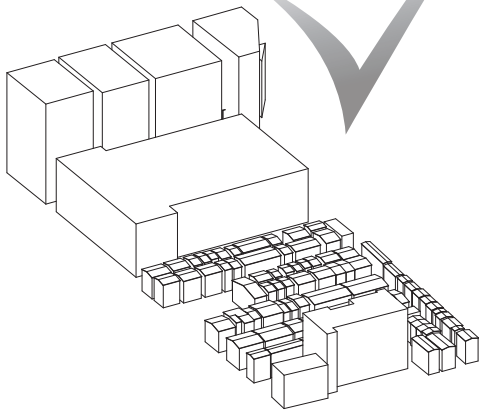
断面ダイアグラム



徐々に更新を繰り返しながら垂直方向へ展開

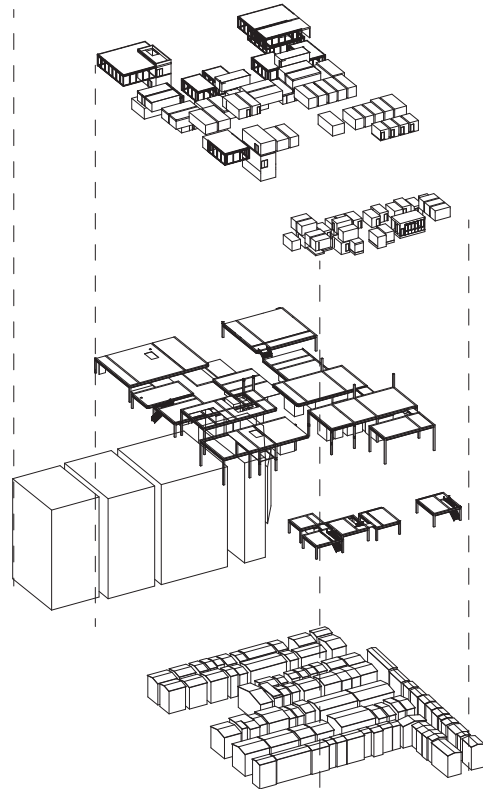
Phase00

音楽・劇・本などに関わる
文化人が多く集まる



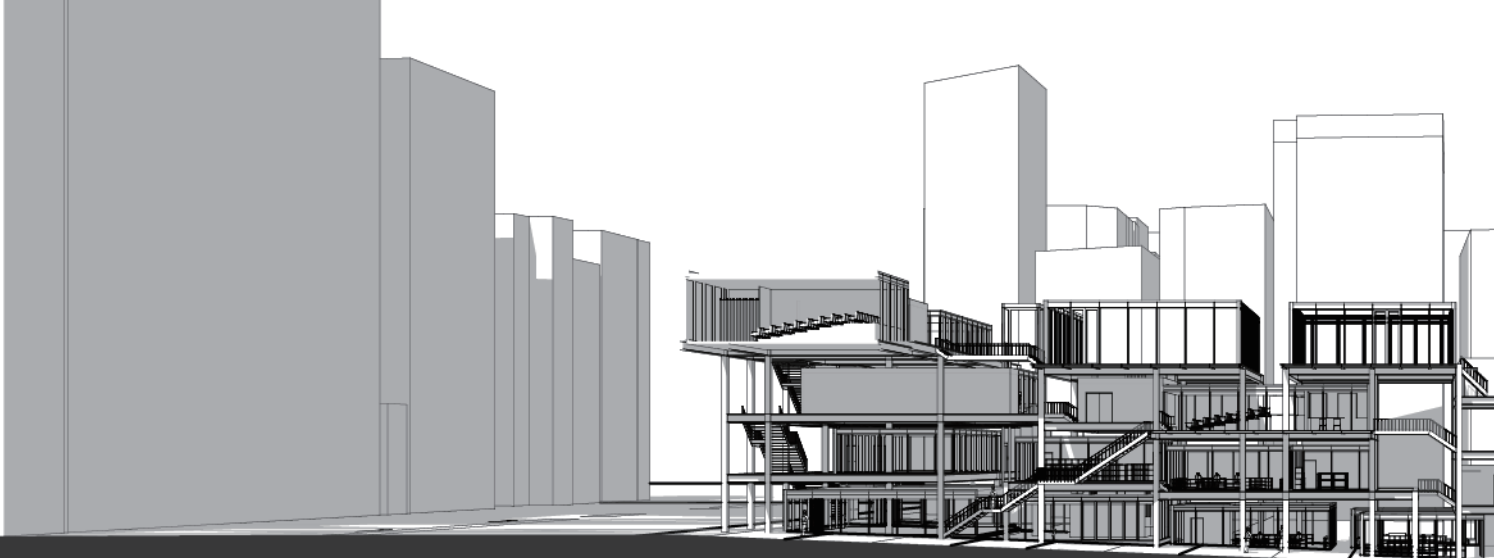
表通りに高層ビルが立ち並び、その奥に小さなG街が広がる

Phase01

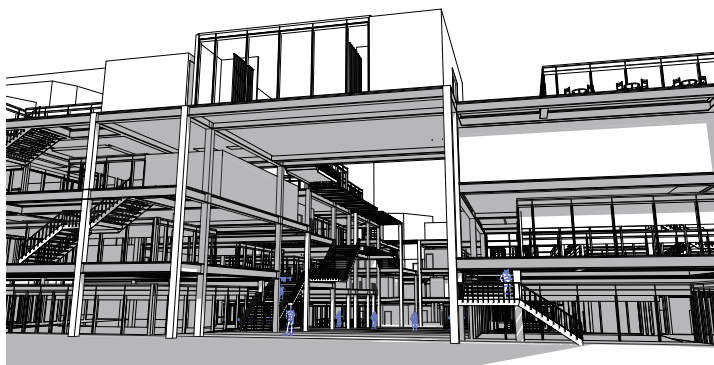


G 街上部と変電所跡地にG街が増築され、更新が始まる

断面パース



多目的に活用できる野外広場



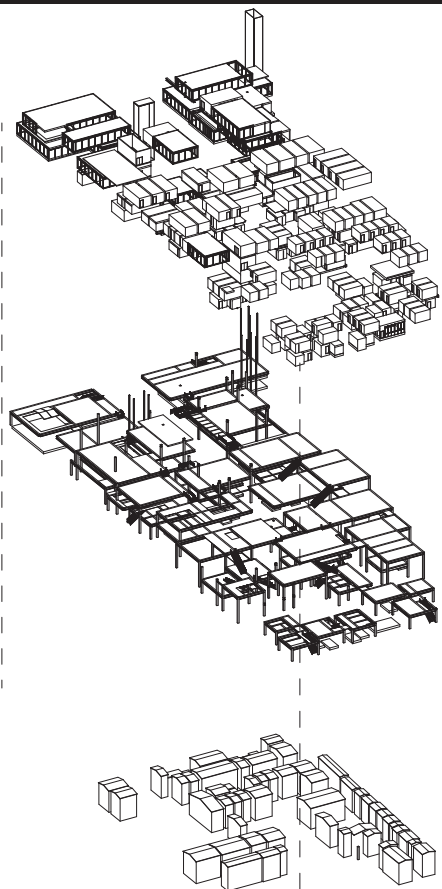
大通りから新たな人が G 街文化に触れる

新旧店舗の混在



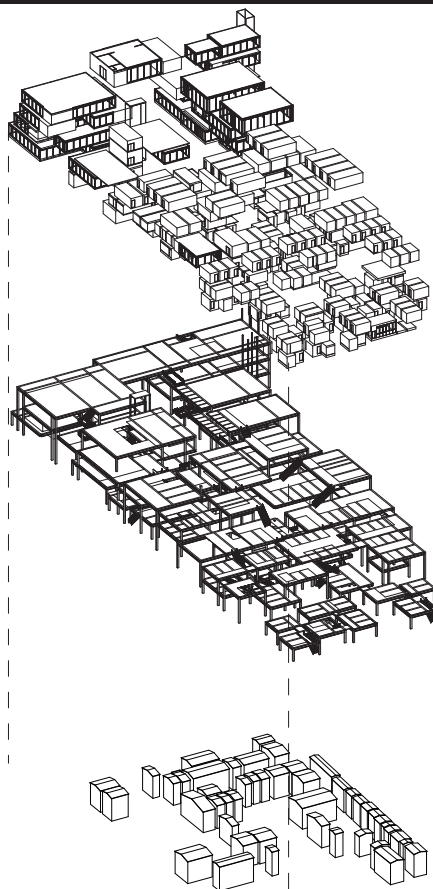
新たな通りが G 街の上に誕生する

Phase02



表通りまで更新が広がり、G 街内では旧建物が建て替わる

Phase03



表通り側は上部へ広がり、G 街部では内部が徐々に更新される

